

注:

この翻訳文書のライセンスは、原ブログから派生した CC BY-NC-SA 3.0 です。

原ブログ: <http://www.kroah.com/log/blog/2017/10/16/linux-kernel-community-enforcement-statement/>

CC BY-NC-SA 3.0

<https://creativecommons.org/licenses/by-nc-sa/3.0/>

Original English: Copyright © 2018 Greg Kroah-Hartman

Japanese translation: Hiroyuki.Fukuchi@sony.com

# ライセンス遵守に関する Linux Kernel コミュニティによる声明

2017 年 10 月 16 日 木曜日

グレッグ クロー ハートマン、クリス メイソン、リック ヴァン リール、シュアカーン、グラント ライクリー著

開発者、企業、ユーザーが作り上げている Linux Kernel エコシステム（業界全体のビジネス構造）は、いかなる基準においても、過去 20 年に渡って桁違いの成功を成し遂げています。過去 1 年に 500 以上の企業と 4,000 人を超える開発者が開発ツリーに変更を加えていることからわかるように、Linux Kernel が世に出てから 26 年を経過した今日でさえ、Kernel 開発者コミュニティは成長を続けています。毎年いつもグレッグが話していますが、Kernel は今年も引き続き前年より速く変化しまし

た。毎日、毎時間の努力の結果、全体として 10,000 行のコード追加、2,000 行の変更、2,500 行の削除がなされ、私たちは 1 時間あたり約 8.5 の変更を取り込んだことになります。

しかしながら、Linux の驚くべき成長と広範囲に渡る採用は、コミュニティが選択したライセンス GPL 2.0 の遵守方法の発展をも必要としているのです。この点において、私たちのコミュニティが基本的なコンプライアンスについて何を期待しているかは完全に明白です。エコシステムとしての私たちのゴールは、新規参加者にコミュニティの期待を認識してもらうとともに、彼らを手助けし、私たちのコミュニティの一員になれるように促す資料を提供することです。私たちの中の数名は、この目的で世界中のさまざまな企業を訪問することに多くの時間を費やしましたし、他の多くの人々は、すべての人がライセンスを遵守しながら Linux を使う方法を理解できるよう、実績的なガイドの作成に不断の努力をしてきました。これらの活動は以下を含みます：

- コミュニティ会議：[FSFE Free Software Legal and Licensing Workshop](https://fsfe.org/activities/ftf/legal-conference.en.html) (<https://fsfe.org/activities/ftf/legal-conference.en.html>)、[FOSDEM](https://fosdem.org/2018/) (<https://fosdem.org/2018/>)、[Open Compliance Summit](#) など

- コンプライアンス ガイド: [Guide to GPL Compliance, Second Edition](https://www.softwarefreedom.org/resources/2014/SFLC-Guide%20to%20GPL%20Compliance%202d%20ed.html) ([https://www.softwarefreedom.org/resources/2014/SFLC-Guide to GPL Compliance 2d ed.html](https://www.softwarefreedom.org/resources/2014/SFLC-Guide%20to%20GPL%20Compliance%202d%20ed.html))、[Practical GPL Compliance, Open Source Compliance in the Enterprise](https://www2.thelinuxfoundation.org/open-source-compliance-ebook/) ([https://www2.thelinuxfoundation.org/open-source-compliance-ebook](https://www2.thelinuxfoundation.org/open-source-compliance-ebook/))
- コンプライアンス コミュニティ: [OpenChain](https://www.openchainproject.org/) (<https://www.openchainproject.org/>)、[SPDX](https://spdx.org/) (<https://spdx.org/>)

残念ながら、ライセンス義務の履行とソースコード入手を確実にするコンプライアンス プロセスが、同時に、個人的な金銭的利益を稼ぐためのトロール活動(訳注: 自分の持つ著作権の侵害を理由に金銭目的で企業を訴える行為)に不正に使われるのです。特に、ネットフィルター コミュニティ出身の開発者パトリック マッカーディが、訴訟を密かに暗示し、時には実際に訴訟を起こし、多額の金銭を要求する形で自分の著作権を行使するという問題が起きました。彼が主張したコンプライアンス問題のいくつかは、解決すべきものであり、簡単に解決できるものです。しかし、さらに彼は、私たちのコミュニティの誰もがコンプライアンスに関係すると決して考えていなかった GPL 2.0 のあいまいな点を根拠に権利主張をしました。

これらには、(無線通信や WiFi など)無線によるファームウェア頒布でも、携帯電話機器メーカーはソースコード入手のための書面による申し出を紙で配布する必要があるという主張、第 3 節の「equivalent access」という用語を根拠に、ソースコード サーバーはバイナリー サーバーと同じダウンロード速度を提供しなくてはならないという主張、GPL 2.0 を現地の言語に翻訳したものの要求などが含まれますし、他にも多数あります。

彼がこの活動をどのように続けてきたかは、最近ヘザー ミーカーによって実に良い文書にまとめられています。

Kernel コミュニティの多数の開発者たちが、彼の活動について議論するためにパトリックと連絡を取ろうとしましたが、返事はもらえませんでした。さらに、ネットフィルター コミュニティは、コンプライアンス遵守に関する彼らの原理(<https://netfilter.org/files/statement.pdf>)を破ったという理由で、パトリックがコード貢献できないようにしました。

(<https://marc.info/?l=netfilter-devel&m=146887464512702>) ネットフィルター コミュニティは、この件に関して自分たちで作成した FAQ (<https://netfilter.org/licensing.html#faq>)を公開しています。

Kernel コミュニティは、企業をコンプライアンス遵守に導く努力をいつでも支援してきましたが、コンプライアンス遵守を金銭的利益に利用すること

を考えたことは決してありませんでした。パトリックは密かに活動していますので、正確な数字を知ることはできませんが、活動から少なくとも数百万ユーロを得たと私たちは考えています。彼の活動は少なくとも4年は継続しており、私たちのエコシステムに対する信頼を脅かしていることを私たちは認識しています。

上記理由、および、Linux Kernel コミュニティの大多数のメンバーの思いを明確にすることは私たちのライセンスを遵守してもらうための正しい方法であるという理由から、Linux Foundation の Technical Advisory Board (<https://www.linuxfoundation.org/about/technical-advisory-board/>) は、コミュニティ内の弁護士、個々の開発者および Linux の開発や利用を行う多くの企業とともに、Kernel Enforcement Statement を起草しました。これが書かれたのは、私たちが今日直面している具体的な問題に対して意見表明するとともに、将来同じ問題が起きないようにするためです。

すべての GPL 2.0 ライセンス遵守活動の主要なゴールは、企業をライセンス コンプライアンス遵守状態にし続けることです。Kernel Enforcement Statement (<https://lkml.org/lkml/2017/10/16/122>) は、まさにこれを目的として作られました。それは、違反が発見されたときに、コンプライア

ンス状態へ正すための時間的猶予を企業に与える追加許諾 (Additional Permission) として良く知られた GPL 3.0 に由来する同じ終了条項を採用しています。この追加許諾に頼ることができるということが、ユーザーに自信を回復させ、年来私たちが求めてきた当初の目的、つまり真のコンプライアンス、へとコンプライアンス活動を向ける助けとなることを願っています。

私たちのエコシステムにいる Kernel 開発者は、他の Kernel パッチと同じように、声明 (Statement) への彼ら自身による承認をパッチの形でグレッグへ送ることができます。それらは喜んでマージされるでしょう。企業を代表して承認する権限を与えられた者は、彼らの名前の後のカッコ内に企業名を追加することができます。

注: この件が Kernel 開発者コミュニティで議論されたときに、多くの質問が出ました。このトピックについて質問があるときには、共通の質問に答えている Greg's FAQ (<http://kroah.com/log/blog/2017/10/16/linux-kernel-community-enforcement-statement-faq/>) を見て下さい。

投稿グレッグ クロー ハートマン 2017 年 10 月 16 日木曜日  
[enforcement](#), [kernel](#), [linux](#), [statement](#)